



当院の職員は、患者さんにより質の高い医療を提供するために、入職後も日々研鑽を続け、それぞれ特定の分野において高度な知識と技術、経験を積むことによって得られる様々な資格を取得しています。この連載では、資格を得るための条件や流れ、資格取得後の働き方などについてご紹介していきます。

臨床工学技士の認定資格

呼吸療法認定士

1.呼吸療法認定士とは

「呼吸療法認定士」は、呼吸器疾患の患者さんに対して専門的なケアを提供するための資格です。近年、呼吸療法を含む重症管理患者さんが増加する反面、呼吸療法に精通した医療スタッフの不足が深刻な問題となっています。そこで、**日本胸部外科学会・日本呼吸器学会・日本麻酔科学会**が3学会合同で、「呼吸療法認定士」の資格制度を創設しました。この制度は、看護師・准看護師・理学療法士・作業療法士・臨床工学技士の有資格者が呼吸療法を習熟し、より高度な呼吸管理を行えるようになること、またレベル向上を図ることを目的としています。

2.資格概要

認定試験は、毎年11月下旬から12月上旬に実施されます。試験はマークシート形式で、認定講習会やテキストの内容を含めた呼吸療法全般に関する問題が100問出題され、過去5年間の合格率は68.4%です。認定講習を通じて、**呼吸機能や酸素療法への理解、呼吸に関わる解剖生理、人工呼吸器の取り扱いなど、幅広い知識と実践的な技術を習得できます**。呼吸療法に関する知識を深めることで、医師の指示内容への理解が深まり、よりの確な対応ができるようになります。呼吸療法認定士は、医療チームの一員として患者さんの呼吸状態を評価し、最適な治療法を提案することや、患者さんやそのご家族に対して、呼吸管理の方法を指導することも重要な役割です。吸入療法、酸素療法、呼吸理学療法及び人工呼吸などの呼吸療法は、日常の重要な治療手段のひとつとして広く普及が望まれています。各医療施設の共通の悩みとして、これら呼吸療法に精通した医療要員の不足があげられ、このことが呼吸療法普及の大きな障害となっています。

3.呼吸療法の種類

呼吸療法は、大きく分けて以下のような種類があります。

(1)酸素療法

Oxygen Therapy



鼻カニュラ

低酸素症に対して吸入酸素濃度を高め、適量の酸素を投与する治療法です。鼻カニュラや簡易酸素マスクなどを用いて酸素を供給し、低酸素症の改善を図る低流量システムと、ベンチュリーマスクや近年Covid-19の感染拡大に伴い、急速に普及したネーザルハイフロー(Nasal High Flow)等の高流量システムがあります。

(2)非侵襲的陽圧換気療法

Non-invasive

Positive Pressure Ventilation

: NPPV



気管挿管や気管切開せずに、鼻などにマスクをつけて行うタイプの人工呼吸療法のことです。1990年頃にNPPVが導入され始めて、人工呼吸器の導入する機会が劇的に増えることと

なりました。気管切開を行わないために声を出すことができ、コミュニケーションが可能であること、また一時的にマスクを外して食事を取ることができます。軽度の呼吸不全や睡眠時無呼吸症候群(Sleep Apnea Syndrome :SAS)等に用いられます。

(3)侵襲的陽圧換気

invasive positive pressure ventilation:IPPV



人工呼吸器を使用して、気道挿管や気管切開した状態で呼吸を補助する療法です。確実な気道確保、気管内吸引が可能であり、誤嚥の可能性が少なく、様々な設定があるので呼吸・循環管理がしやすいです。しかし、気管内チューブの挿入・吸引により苦痛が伴うことや、場合によっては鎮静剤が必要になります。また、感染、気道・口腔粘膜損傷の可能性、コミュニケーション・活動の制限となることもあります。神経筋疾患や、重症呼吸不全、あるいは大きな手術の術後管理などにおいて不可欠な治療法です。人工呼吸器は生命維持装置の一つであるため、その取扱い・保守管理を適切に行う必要があります。



院内で使用している呼吸療法に関する機器例

(1) ネーザルハイフロー(左)

(2) マスク換気用人工呼吸器(中)

(3) 挿管用人工呼吸器(右)

(4)リハビリテーション、気道クリアランス

Pulmonary Rehabilitation

呼吸器疾患におけるリハビリテーションは、運動療法や呼吸筋訓練などを通じて、患者さんの呼吸機能を向上させるプログラムで、特に慢性閉塞性肺疾患(Chronic Obstructive Pulmonary Disease :COPD)において有効とされています。気道クリアランスは、痰などの気道内分泌物を除去するための療法で、カフ排痰療法や肺内パーカッションなどを用い、気道の浄化を図り、気道閉塞の予防や、無気肺・肺炎などの予防に用いられます。

4.最後に ✓

医療技術の進歩や人口の高齢化にともない、急性期や在宅医療の分野を中心に、重症患者さんに対する呼吸療法が重要視されるようになりました。しかし、多くの医療介護施設では、吸入療法や酸素療法、呼吸理学療法、人工呼吸といった呼吸療法に精通した医療従事者が不足しているのが現状です。患者さんが必要な治療を受けられるように、呼吸療法に関する専門的な知識・技術を持つ「呼吸療法認定士」のニーズは高く、今後の増加が期待されています。

呼吸療法チームにおける一員としてその能力を発揮するためには、呼吸療法の目的、理論、治療の実際などについて高度な専門知識が必要です。「呼吸療法認定士」認定後は5年ごとの更新制です。更新には学会や講習会への出席・論文発表などによる点数取得の要件があり、これにより生涯教育の促進を図っています。呼吸療法認定士になることで関心を持ち、理解を深め、学習を続けることが大切です。

(臨床工学科 臨床工学技士 望月 幹也)